

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
高梁川直轄河川改修事業 (小田川合流点付替え) 中国地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・小田川は戦後最大規模 (S47.7) の洪水に対して全川の的に流下能力が不足 ・土砂の堆積、河道内の樹木の繁茂等により、洪水を安全に流下させるために必要な河積が不足 ・高梁川本川と小田川は洪水ピークが重なりやすく、高梁川の水位の影響により、小田川の水位が高くなる 	高梁川水系河川整備計画の目標である戦後最大規模 (S47.7) の洪水が再び発生しても、外水による小田川沿川の浸水被害を防止	<ul style="list-style-type: none"> ・高梁川水系河川整備計画の目標である戦後最大規模 (S47.7) の洪水が再び発生しても、外水による小田川沿川の浸水被害を防止するために複数の治水対策案を立案した。 ・小田川での適用性を考慮して、「堤防嵩上げを中心とする案」「河道掘削を中心とする案」「引堤を中心とする案」「合流点付替えを中心とする案」を抽出して、7つの評価軸 (「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」) について評価した。 <ul style="list-style-type: none"> (案1) 堤防嵩上げを中心とする案 ・堤防嵩上げ (小田川全川) (案2) 河道掘削を中心とする案 ・河道掘削等[※]+堤防嵩上げ (下流) (案3) 引堤を中心とする案 ・引堤+堤防嵩上げ (下流) (案4) 合流点付替えを中心とする案 ・小田川合流点付替え+河道掘削等[※] <p>※「河道掘削等」には樹木伐採を含む</p>	4案のうち、「コスト」について最も有利な案は、「合流点付替えを中心とする案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、「合流点付替えを中心とする案」による対策が妥当